

【地域活動ノート】

## 第19回薬局管理栄養士研究会の活動報告

管理栄養士の専門性で薬局・ドラッグストアの価値を高めよう  
～一次予防から三次予防まで管理栄養士の役割を考える～

東郷直征\*・家辺愛子\*・小口淳美\*・藤田智子\*・内山貴雄\*・南野知子\*・佐野文美\*・  
堀由美子\*\*\*・岩田直洋\*\*\*・君羅好史\*\*\*・清水純\*\*\*\*・真野博\*\*\*\*・内田博之\*\*\*\*

### 活動の概要

薬局管理栄養士研究会（2006年発足、2023年会員化）は、専門職種・業種の枠組みにとらわれず、会員同士の連携と親睦を促進すること、薬局管理栄養士の活動支援や発展および育成に必要な情報収集・発信を行い、地域の栄養ケアを推進し、住民のQOL向上に寄与することを目的としている。本研究会の主事業である第19回薬局管理栄養士研究会は、城西大学坂戸キャンパスを配信会場としてオンライン（Zoom）にて開催したので報告する。

キーワード：薬局管理栄養士研究会、管理栄養士、保険薬局、ドラッグストア

第19回薬局管理栄養士研究会は、2024年11月16日（土）13時30分～17時40分、「管理栄養士の専門性で薬局・ドラッグストアの価値を高めよう～一次予防から三次予防まで管理栄養士の役割を考える～」を開催テーマとし、基調講演や口頭発表、グループディスカッションを行った。全国から約80名の参加者が集まり、盛会のうちに終えた。

プログラムでは、はじめに、来賓の公益社団法人 日本栄養士会 常任理事の西村一弘氏にご挨拶をいただき、薬局管理栄養士への応援メッセージを頂戴した。基調講演では、薬樹株式会社 東郷直征氏に「薬局グループ特定保健指導 取り組み紹介と今後の展望」のテーマで講話いただいた。また、口頭発表（4題）では、薬局管理栄養士として日頃の取り組みや、薬剤師との連携、活動状況や課題などが報告され、続いて行われたグループディスカッションでもそれらを基に議論されるなど、今後の管理栄養士の活動や役割を考える時間となった。

次回は研究会発足20周年を迎える。引き続き、薬局・ドラッグストアで活躍する管理栄養士を中心に、薬剤師や関連職種、薬局管理栄養士を目指す学生など、様々な方との情報交換や情報収集、互いの交流の場として、活発な研究会になることを願っている。

第19回薬局管理栄養士研究会の基調講演・口頭発表の内容、アンケート結果は以下のとおりである。

- 
- \* 薬局管理栄養士研究会世話人
  - \*\* 活水女子大学健康生活学部食生活健康学科教授
  - \*\*\* 城西大学薬学部医療栄養学科准教授
  - \*\*\*\* 城西大学薬学部医療栄養学科教授

<基調講演>

「薬局グループ特定保健指導 取り組み紹介と今後の展望」 薬樹株式会社 東郷 直征 氏

<口頭発表>

演題1 アンケート調査からみた薬局における管理栄養士のニーズと認知度・栄養相談有料化について；アップル薬局内郷店

演題2 薬局管理栄養士の認知度向上に向けた現状と課題；株式会社メディカルリンク

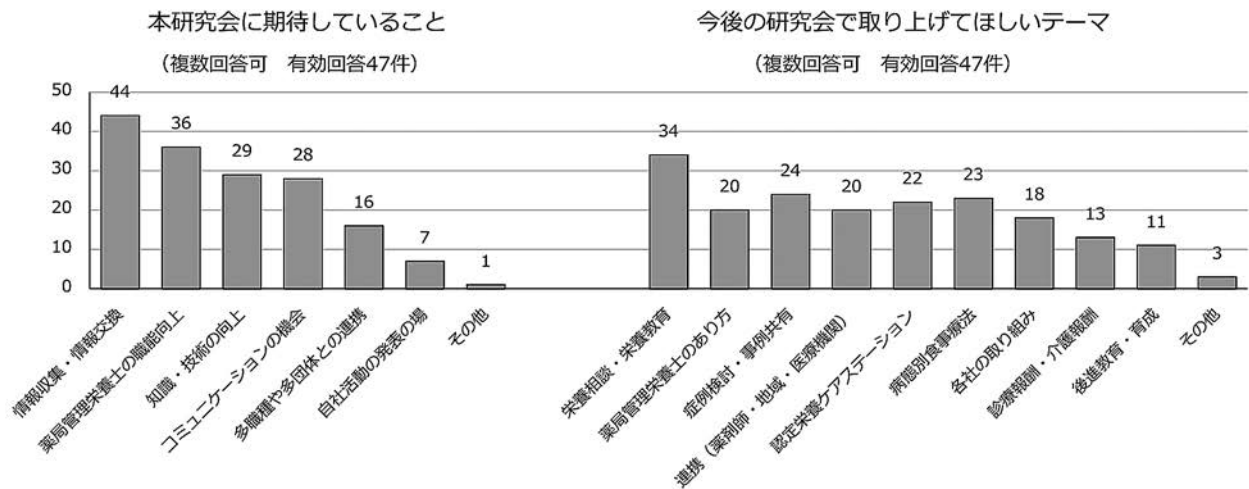
演題3 栄養相談件数UPに向けた取り組みの効果と課題～声掛け強化月間を通して～；株式会社フォーラル

演題4 株式会社パル・オネストの薬局管理栄養士活動について；株式会社パル・オネスト

<アンケート結果（一部抜粋）>

参加者が本研究会に期待していることとして最も多かった回答は「情報収集・情報交換」、次いで「薬局管理栄養士の職能向上」、「知識・技術の向上」だった。また、次年度の年次大会で取り上げてほしいテーマとしては「栄養相談・栄養教育」が最も多く、参加者の薬局・ドラッグストアの店頭等で行う栄養相談に対する関心の高さが伺えた。

なお、本アンケート調査は、城西大学「人を対象とする生命科学・医学系研究倫理審査委員会」の承認を受けて実施した（許可番号：2021-08）。



薬局やドラッグストアで勤務する管理栄養士は増えつつあるが、活躍拡大には依然として課題が残る。薬局管理栄養士の活動が社会的に認知されるためには、個人・個店単位の取り組みだけではなく、対象母数が多く影響度の高い実績とそのアピールが重要となる。本研究会は他社の管理栄養士との連携・コミュニケーションの機会であり、他社（者）の活動内容を知ることができる重要な機会である。引き続き、薬局管理栄養士の優れた取り組みの発信機会や場を提供し、アンケート調査による参加者の意向を収集し、現場に必要とされる情報発信に努め、さらなる職能拡大・向上を目指していく。